

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 ライフサイエンス専攻 遺伝カウンセリングコース について

アドミッションポリシー

遺伝子診療、すなわち遺伝子診断や遺伝子治療が行われるようになり、遺伝カウンセリングの役割は非常に大きくなりつつあります。本コースは遺伝子診療の場で活躍できる遺伝カウンセラーと遺伝カウンセリングという新しい分野の教育者・研究者の養成をめざします。遺伝カウンセリングには「遺伝」の問題に直面した悩める人たちを心優しく支援しようという気持ちと、それを可能にする技量の両者が必要です。本コースではこの新しい領域を開拓する意欲のある学生を望んでいます。

本コースの概要

本課程は、5年を一貫とした教育研究でスタートし、2013年度入学生より、博士前期課程の間に医療機関での実習を終え、認定遺伝カウンセラー認定試験受験資格を取得できるカリキュラムに変更しました。なお、本大学院博士課程は、2005年4月に設立された日本遺伝カウンセリング学会および日本人類遺伝学会の認定遺伝カウンセラー制度委員会によって、認定養成課程としての承認を受けています。

博士前期課程の2年の間では、遺伝カウンセラーとしての職業人、専門職の育成をおこないます。実際のカリキュラムとしては、人類遺伝学、遺伝医学、医療に関する概論などの講義、演習、協力病院においての実際の遺伝医療の外来等の陪席実習によって、医療人としての自覚の涵養、遺伝カウンセラーとしての基本的な知識・技術・態度レベルの習得をおこないます。卒業後、学会認定資格である認定遺伝カウンセラー認定試験に合格すると、認定遺伝カウンセラーとして医療保健などの領域で活躍するためのスタート地点にたてます。

博士後期課程では、実際のカウンセリングの現場での参加を持続しながら、遺伝カウンセリング研究をおこないます。課程修了後には博士号（学術）の審査資格を取得できます。

入学を希望される方へ

博士前期課程（修士）の受験を希望される方は、入試が行われる年度のオープンキャンパスで開催される説明会、もしくは、入試が行われる年度に開催される遺伝カウンセリングコース入試説明会のいずれかに必ずご出席ください。なお、当コースは社会人枠での応募はございません。

2019年度大学院オープンキャンパス

4月13日（土曜日） 共通講義棟3号館207教室 14時30分～16時30分

2019年度第1回遺伝カウンセリングコース入試説明会

6月下旬に開催予定



お茶の水女子大学大学院 遺伝カウンセリングコース 15周年記念シンポジウム



平成31年

3 / 2 (土)

13:00～16:30

(会場 12:30)

会場

お茶の水女子大学
本館306室

入場無料

*一部のみ、二部のみ参加も可能です

第1部 パネルディスカッション ～設立15周年を記念して～

13:00 開会挨拶／教授 三宅 秀彦

13:10 特別講演／学長 室伏 きみ子

13:50 パネルディスカッション ◎ コーディネータ／三宅 秀彦

千代 豪昭氏、山内 泰子氏、佐々木 元子氏、別所 友子氏、武田 恵利氏、東川 智美氏

第2部 模擬講義・実演 ～遺伝カウンセリングを知ろう～

後援 NPO法人 遺伝カウンセリング・ジャパン

ゲノム医療が注目されています。正確な情報を得るために大切な「遺伝カウンセリング」について概説を聞いて、実際の遺伝カウンセリングを見学してみましょう。

15:30 模擬講義 遺伝カウンセリングとは／教授 三宅 秀彦

15:50 遺伝カウンセリング実演

四元 淳子氏、原田 佳奈氏、張 香理氏、木村 緑氏

16:25 閉会挨拶／助教 佐々木 元子



主催

お茶の水女子大学大学院
遺伝カウンセリングコース
15周年記念事業実行委員会

連絡先

TEL: 03-5978-5742
Mail: ocha.genetic.counseling@gmail.com

お茶の水女子大学における 「遺伝カウンセラー養成課程」 設置15年を記念して

お茶の水女子大学長 室伏 きみ子



お茶の水女子大学大学院博士前期・後期課程に、「遺伝カウンセラー養成課程」が設置されて15年が経ちました。これまで、多くの方々のご助力の下で、優れた遺伝カウンセラーを養成することができましたことに、心より感謝申し上げます。

私が、遺伝カウンセラーという職業を知ったのは、ニューヨークに留学していた40年も前のことです。当時、医師でない「遺伝カウンセラー」という専門的かつ高度な職業があることを知り、いずれ日本でも遺伝カウンセラーの養成が必要になると考えて来ました。その後20年以上もの時を経て、国立大学の法人化を前に、本学に人々の役に立つ新たな学問と人材育成の礎を作ろうとの日々の議論の中で、日本にも遺伝カウンセラーを養成する大学院課程を創りたいとの思いが蘇りました。そして、当時の本田和子学長のご理解の下、学内の多数の教職員の協力と、東京女子医科大学の先生方のご助力を得て、最初は全くの手探りでしたが、2004年度から、お茶の水女子大学大学院博士前・後期課程に5年一貫の「遺伝カウンセラー養成課程」を設置できる運びとなりました。森田寛教授（保健管理センター所長）をコース代表として、本学の生命科学、心理学、社会学等を専門とする教員が総力を挙げて関わりと同時に、東京女子医科大学の相川英三教授、斎藤加代子教授、鎌谷直之教授、高桑雄一教授をはじめとする先生方から多大なご協力を頂いて、医学部の講義や臨床実習にも参加させて頂くことになりました。こうして、基礎遺伝学/同実習、人類遺伝学/同実習、遺伝医学、基礎医学、遺伝カウンセリング学/同実習、生命倫理・医療倫理学、統計学、心理学、社会学など、幅広い専門教育科目を揃えることができました。

課程設置に並行して、文部科学省・科学技術振興調整費「新興分野人材養成事業」に申請したところ、幸いなことに同年7月から5年間の支援（合計5億円）を受けることができましたので、当時、遺伝カウンセリングの重要性を訴えていらっしゃった千代豪昭先生（当時、大阪府立看護大学教授）に、本課程の初代教授として着任頂き、米国で遺伝カウンセラーの資格を取得された田村智英子さんに助教授（後に准教授）に就任して頂きました。さらに、講義や実習のカリキュラムを確立するために、様々な領域をカバーする特任講師の方たちにも参加頂いて、日本初の大学院博士前期・後期課程に跨る5年制の遺伝カウンセラー養成課程の教育・研究が開始されました。そして、金澤一郎先生を委員長とする外部評価委員会を設置し、毎年度末に事業実績の検証評価をお願いし、次年度の事業開発に活かしてきました。

私たちは、「新興分野の人材育成は、実務者としての被養成者の養成のみならず、その分野の確立と発展を担う指導者の養成であるべき」と考えて、遺伝カウンセリングという学問分野を構築・発展させる人材の育成を目指し、そのために5年制の課程が必要だと考えたのです。実際に、本学の養成課程で学んだ卒業生たちは、高い志を持って、先進科学の事象と人々の意識や心理をも対象とした領域で広い知識と高度な技術を修得し、倫理的規範と社会的通念に配慮できる優れた人材として育ちました。そして社会に出てからは、クライアントや様々な医療関係者からの信頼を得て活躍しています。既に博士号を取得している卒業生が7名、そのうち3名が大学で教鞭を執って、指導者・教育者としても活躍してくれています。

なお、5年間の文科省の支援終了に当たり、規模は大幅に縮小せざるを得ませんでした。当時の郷通子学長のご判断で、教授1、准教授1を承継教員として、また特任助教1を任期付き教員として措置して頂きました。そして、千代教授、田村准教授が退任された後を、川目裕教授、山本佳世乃助教、四元淳子助教、沼部博直教授が引き継がれ、現在は、三宅秀彦教授と佐々木元子助教が中心となって、本課程の運営に携わって下さっています。

最近、遺伝カウンセリングの必要性が広く認識されるようになり、社会からの需要の高まりと共に、その人数の確保が急務となっています。NIPTの実施などに伴い、医療機関や検査企業などからの需要も益々高まることが予想されますが、今、社会で進みつつある動き、すなわち、人材不足を口実に、医療従事者への簡単な研修などによる安易な対応で急場をしのごうとする動きは、未来に禍根を残すことになるのではないかと危惧されます。遺伝カウンセラーという職業の質保証や人類の未来への責任に鑑み、一日も早く、わが国の全ての地域で、全ての人々が、必要に応じて質の高い信頼できる遺伝カウンセリングを受けられるようになる仕組みが創られることを願ってやみません。

現在、遺伝カウンセラーは、社会からの要請も高く、人々の未来のために役立つ高度職業人であり、最初からこの人材育成に関わった多様な領域の方々から、高く評価されています。これからの職業は、ますます重要性を増すこととなるでしょう。これまで優れた遺伝カウンセラーの養成のためにご尽力下さった皆さまに、心から感謝申し上げますと共に、これからは遺伝カウンセラーたちを応援して頂きますよう、そして、遺伝カウンセラーの国家資格化に向けてご支援頂きますよう、切にお願い申し上げます。

遺伝カウンセリングコース開講15周年によせて

お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科
ライフサイエンス専攻 遺伝カウンセリングコース
教授 三宅秀彦



お茶の水女子大学大学院遺伝カウンセリングコースの開講15周年、誠におめでとうございます。本コースが15年間絶やさず卒業生を輩出してきたことは、日本の遺伝カウンセラーの歴史そのものでもあります。また、現在の医療において、認定遺伝カウンセラーが欠かすことのできない存在となったのも、卒業生のみなさまが活躍されてきた賜物でしょう。多くの医療人からの信頼を得てさまざまな領域で活動されていることは、たいへん素晴らしい誇れることです。また、本大学院としては、大学教員としての教育、臨床の現場における指導、企業など少し異なる立場からの教育、など、人材育成にも多く関わっていただいております。

現在、網羅的なゲノム解析やがんゲノム医療の実装など、遺伝医療は大きな転換点にあります。今後、遺伝カウンセリングの現場において、遺伝カウンセラーの役割の再構築、遺伝カウンセリング提供体制のシステム化という大幅な変革が望まれます。この変革にも、本学遺伝カウンセリングコースの力が必要です。力をあわせて、よりよい遺伝医療・ゲノム医療を作っていきましょう。